

法人事務局（法人本部） MAP 2

〒520-2321
滋賀県野洲市北桜 978 番地の 2
びわこ学園医療福祉センター野洲内
TEL (077)587-1144 FAX (077)587-4211
E-Mail: biwako@biwakogakuen.or.jp

びわこ学園医療福祉センター草津 MAP 1

〒525-0072
滋賀県草津市笠山八丁目 3 番 113 号
TEL (077)566-0701 FAX (077)566-0308
E-Mail: kusatsucenter@biwakogakuen.or.jp

びわこ学園医療福祉センター野洲 MAP 2

〒520-2321
滋賀県野洲市北桜 978 番地の 2
TEL (077)587-1144 FAX (077)587-4211
E-Mail: yasucenter@biwakogakuen.or.jp

知的障害児者地域生活支援センター MAP 3

さくらはうす・ひまわりはうす・生活支援センター
〒520-0802
滋賀県大津市馬場二丁目 13 番 50 号
大津市立やまびこ総合支援センター内
TEL (077)527-0494 FAX (077)523-7200
E-Mail: otsucenter@biwakogakuen.or.jp

びわこ学園長浜診療所 MAP 3

〒526-0845
滋賀県長浜市小堀町 122 番 1
TEL (0749)53-2771 FAX (0749)53-2774

滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター MAP 1

びわこ学園医療福祉センター草津内
TEL・FAX (077) 566-0746



びわこ学園障害者支援センター MAP 4

〒524-0014
滋賀県守山市石田町 707 たいよう内
TEL (077)585-8040 FAX (077)585-6550

●重症心身障害者通所施設 えがお MAP 3

〒526-0845
滋賀県長浜市小堀町 122 番 1
TEL (0749)65-1001

●重症心身障害者通所施設 さんさん MAP 2

びわこ学園医療福祉センター野洲内
TEL (077)587-4290 FAX (077)518-0482

●重症心身障害者通所施設 たいよう MAP 4

〒524-0014
滋賀県守山市石田町 707
TEL (077)585-8040 FAX (077)585-6550

●重症心身障害者通所施設 かなえ MAP 3

〒525-0013
滋賀県草津市新堂町 134-1
TEL (077)516-4778 FAX (077)568-0377

●重症心身障害者通所施設 ピアーズ MAP 1

びわこ学園医療福祉センター草津内
TEL (077)566-0774

●訪問看護ステーション ちょこれーと。 MAP 6

〒525-0072
滋賀県草津市笠山四丁目 12 番 57 号
TEL・FAX (077)598-0720

●訪問看護ステーション ちょこれーと。出張所 MAP 2

びわこ学園医療福祉センター野洲内
TEL (077)587-1139 FAX (077)587-1795

●多機能型事業所 ちょこらんど MAP 6

〒525-0072
滋賀県草津市笠山四丁目 12 番 57 号
TEL・FAX (077)598-0720

●ヘルプステーション ちょこれーと。 MAP 2

びわこ学園医療福祉センター野洲内
TEL (077)586-1856 FAX (077)518-0482

●ケアホーム ともる MAP 6

〒520-2102
滋賀県大津市松が丘七丁目 15-5
TEL・FAX (077)507-2373

●ケアホーム えまい MAP 7

〒520-2322
滋賀県野洲市南桜 2292-27
TEL (077)518-0700 FAX (077)518-0655

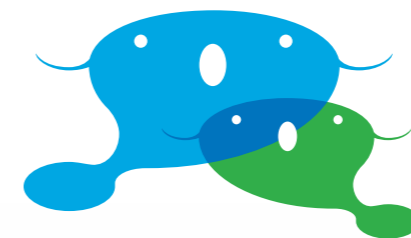
●重症児者相談支援センター びわりん MAP 2

びわこ学園医療福祉センター野洲内
TEL (077)587-5360

●重症児者相談支援センター てくてく MAP 3

重症心身障害者通所施設 えがお内
TEL (0749)53-0111

社会福祉法人びわこ学園は、医療・福祉支援を通して一人ひとりが安心して豊かに生活できる社会を目指して理解の輪を広げてまいります。



社会福祉法人
びわこ学園



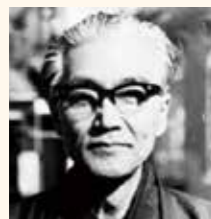
びわこ学園の理念

この子らを世の光に

障害の重い人たちの生活の創出と幸福を追求してきたびわこ学園の創設者、糸賀一雄は「この子らを世の光に」と提唱しました。びわこ学園はその意義を自覚し、障害の重い人たちが市民として生きる社会をめざします。

- 1 一人ひとりの尊厳を重んじ、他とおきかえることのできない“いのち”を支えます。
- 2 その人らしさが輝く、「ふつうの生活」をおくることができるよう支援します。
- 3 障害のある人たちが安心して暮らせるまちづくりをすすめます。

糸賀 一雄



大正3年3月 鳥取県生まれ。京都帝国大学文学部哲学科を卒業後、滋賀県庁に奉職し、秘書課長などを歴任する。昭和21年11月、戦後の混乱期の中で池田太郎、田村一二両氏の懇請を受け、知的障害児等の入所・教育・医療を行う「近江学園」を創設し、園長となる。あらゆる困苦と戦いながら、学園の充実を図るとともに、西日本で最初の重症心身障害児施設「びわこ学園」を設立する。

岡崎 英彦



大正11年2月 岡山県生まれ。京都帝国大学医学部に入學後、戦争の激化によって軍医として中国戦線へ、復員後京都大学付属病院勤務する。昭和23年近江学園園医に就任、昭和38年西日本で最初の重症心身障害児施設「びわこ学園」を開設し、園長に就任、昭和41年第二びわこ学園を開設し園長に就任、さらに社会福祉法人びわこ学園理事長を兼任した。

『 熱願冷諦 』『 本人さんはどう思てはるんやろ… 』

初代びわこ学園園長 岡崎先生が職員に残された言葉で現在もびわこ学園職員の心得の基本としています。

びわこ学園の経営理念

- 1 利用者や家族、市民にたいして、経営方針や事業報告などの情報を公開し、市民とともに歩む公正・公平な施設運営を行います。
- 2 障害のある人たちの地域生活に必要な保健医療福祉システムをつくることをめざし、それに対応する経営体制と安定的な財政基盤を整備します。
- 3 障害のある人たちの保健・医療・福祉に必要な資質と専門性向上のための研究研修システムをつくり、職員の働きがいのある職場づくりと人事システム・職場規律の確立をめざします。

びわこ学園の事業概要

- びわこ学園は昭和38（1963）年に入所施設として発足し、現在ではびわこ学園医療福祉センター草津・野洲（長期入所、短期入所、入院、外来診療等）を核として、生活介護、訪問看護、居宅介護、相談支援、グループホーム等様々な支援二ードをもっている重症心身障害児者の生活を支援する事業を展開しています。
- これまで取り組んできた事業は、県内重症心身障害児者の状況変化に応えるためのものであり、滋賀県においていわば重症心身障害児者の地域包括支援ネットワークを形成してきたあゆみといえます。
- びわこ学園は、この「支援のネット」をよりきめ細やかで強固なものとし、重症心身障害児者等が各ライフステージで安心して充実した生活が送れるよう、今後もこれまで培ってきた知識や技術を向上させ抜げていきます。

びわこ学園のあゆみ

びわこ学園は、滋賀県立近江学園での療育実践の結果、「医療と教育の機能をもつ重症心身障害児（以下「重症児」と記述）施設が必要である」ということから、病院の機能をもった児童福祉施設として全国で二番目の重症児施設として誕生しました。また、施設の建設に当たっては、日本自転車振興会（現「公益財団法人JKA」）、国庫、県費等補助金、寄付金等、多くの方々から援助をいただきました。

1953(昭和28)年	県立近江学園とくに医療を必要とする療育グループ「杉の子組」の編成		入所
1958(昭和33)年 9月	財団法人大木会「重症心身障害児施設の建設」を決議		
1962(昭和37)年 8月	社会福祉法人びわこ学園の前身である、社会福祉法人一麦寮の設立		
1963(昭和38)年 4月	「第一びわこ学園」開園		
1965(昭和40)年 4月	社会福祉法人一麦寮の名称を「社会福祉法人びわこ学園」に変更		
1966(昭和41)年 2月	「第二びわこ学園」開園		
	1968(昭和43)年 3月 ・映画「夜明け前の子どもたち」完成		
1968(昭和43)年 9月	糸賀一雄氏(創設者の一人)死去		
	1978(昭和53)年10月 ・創立15周年記念式典、「びわこ学園の15年」発刊		
	1983(昭和58)年10月 ・創立20周年記念式典、「びわこ学園の20年」発刊		
1984(昭和59)年 4月	滋賀県立身体障害者更生援護施設「むれやま荘」受託(～1994(平成6)年3月)	地域移行への流れ	
1987(昭和62)年 6月	岡崎英彦理事長(初代園長)死去		
	1987(昭和62)年11月 ・「抱きしめてBIWAKO」に26万4千人が参加		
	1988(昭和63)年10月 ・創立25周年記念式典、「びわこまんだら」発刊		
1990(平成2)年 4月	「滋賀県重症児通園モデル事業」開始		
1991(平成3)年 6月	「第一びわこ学園」草津市へ移転		
	1997(平成9)年11月 ・「抱きしめてBIWAKO」10周年記念行事		
2000(平成12)年 4月	「知的障害児者地域生活支援センター」(大津市立やまびこ総合支援センターの一部)受託運営開始 滋賀県から「要医療ケア児童等ケアマネジメント試行事業」を受託 (現在の「滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター」につながる)		
2002(平成14)年 5月	「びわこ学園長浜診療所」開設		
	2003(平成15)年10月 ・創立40周年式典 「いのちであいきずなーびわこ学園の40年ー」発刊		
2004(平成16)年 3月	「第二びわこ学園」移転	地域移行への流れ	
	2004(平成16)年10月 ・映画「わたしの季節」完成		
2005(平成17)年 7月	訪問看護ステーション「ちょこれーと。」を野洲市に開設		
2006(平成18)年 4月	「びわこ学園地域支援ステーション」をびわこ学園医療福祉センター草津内に開設		
2007(平成19)年 4月	二つの重症児施設を「びわこ学園医療福祉センター」とし、第一びわこ学園、第二びわこ学園を、それぞれ「びわこ学園医療福祉センター草津」「びわこ学園医療福祉センター野洲」と名称変更。ヘルプステーション「ちょこれーと。」を野洲市に開設		
2007(平成19)年10月	共同生活介護事業「ケアホーム大平」を大津市大平に開設		
2011(平成23)年 9月	共同生活介護事業「ケアホームともの」を大津市松が丘に開設(「ケアホーム大平」廃止)		
2012(平成24)年 3月	「びわこ学園長浜診療所」移転		
2012(平成24)年 4月	重症児者相談支援センター「びわりん」を野洲市に開設		
2012(平成24)年 8月	生活介護事業所「たいよう」を守山市石田町に開設		
2013(平成25)年 4月	「訪問看護ステーションちょこれーと。」の出張所をびわこ学園医療福祉センター草津内に設置		
	2013(平成25)年 ・創立50周年事業(シンポジウム、記念式典、記念行事)開催、 「びわこ学園の50年ー生きることが光になるー」発刊		
2014(平成26)年 4月	生活介護事業所「えがお」を長浜市小堀町に開設(同「たいこ」は廃止)	地域移行への流れ	
2016(平成28)年 4月	共同生活援助事業「ケアホームえまい」を野洲市南櫻に開設		
2018(平成30)年 2月	多機能型事業所「ちょこらんど」運営開始、「訪問看護ステーションちょこれーと。」本部を草津市内へ、出張所をびわこ学園医療福祉センター野洲内に設置		
2018(平成30)年 4月	「びわこ学園長浜診療所」新築移転		
2020(令和2)年 4月	生活介護事業所「かなえ」を草津市新堂町に開設		
2022(令和4)年 4月	重症児者相談支援センター「てくてく」を長浜市小堀町に開設		
2023(令和5)年 4月	滋賀県から「滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター」を受託、運営開始		
	2023(令和5)年 ・創立60周年事業開催、「びわこ学園の60年」発刊		



びわこ学園医療福祉センター

(病院／医療型障害児入所施設・療養介護事業所)

施設の特徴

びわこ学園医療福祉センターは、重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複している方々の福祉施設であるとともに医療法に基づく病院としての機能を併せもった施設です。

児童福祉法及び障害者自立支援法の改正により、2012（平成24）年4月障害福祉制度の変更に伴い、適用法令が年齢により区別されるようになり、18歳未満の障害児については医療型障害児入所施設、18歳以上の障害者については療養介護事業所として再編されましたが、重症心身障害の特性を踏まえ、児者一貫継続した支援を行っています。

利用者の特徴

重症心身障害の方は心身ともに重い障害があり、日常生活を送るのに全面的な介護や多くの医療が必要で、在宅生活が困難な方が長期にわたって入所されています。また、知的障害が重く、肢体不自由がないかあっても軽い（不安定だが歩行可能な）人たちや、重度の肢体不自由がありながら知的障害が比較的軽度な人たちといった医療が必要で施設への入所を必要とする方も利用されています。

びわこ学園医療福祉センターでは、運営方針に沿って個別支援計画に基づき、一人ひとりの発達やニーズにあった医療・療育・訓練を実施しています。特に、呼吸機能や摂食嚥下・消化器機能、姿勢等医学的管理が絶えず必要とされる『超重症児（者）』や、歩行は可能であっても身体疾患や強度の行動障害を有し、医療を必要としている人たちに対する支援の在り方、高齢化対応への課題もありながら、バランスのとれた食事の提供や入浴のほか、日々の日課に沿って、より充実した生活を送ることができるようさまざまな取組みと支援を行っています。

入所支援機能を活かした地域支援機能

外来診療・発達支援

在宅の心身障害児者に対し、外来診療を行います。発達の遅れ、神経疾患に関する診療、検査、在宅に係る相談も行っています。

診療科目 内科、小児科、リハビリテーション科、整形外科

センター草津では、このほか神経科、精神科、歯科も診療

発達支援 栄養相談、発達相談、補装具相談、福祉相談（在宅生活援助相談）

短期入所

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの一つです。家族および介護者の休養、冠婚葬祭等の行事のため、また家庭以外のちがった環境に適応するための体験入所、特別支援学校卒業後の生活の場の選択肢を広げるための体験入所等で短期間利用していただくことができます。

入院

急な体調変化の治療、てんかん治療、摂食、リハビリ、肥満、生活習慣病対策など、緊急度の高い方々の入院をできる限り受け入れています。



びわこ学園医療福祉センター草津

開設： 1963（昭和38）年4月
保険病床： 126床
福祉定員： 123名（うち短期利用15名）
看護基準： 障害者施設等入院基本料7：1
（第1・第2・第3病棟）



自然のぬくもりを大切にしています。また社会とのつながりを大切に、地域で暮らしている人たちにとっても、利用しやすい施設となるよう努めています。

病棟は3つあり、それぞれ35名前後の人たちが生活しています。スタッフが相互に連携をとりながら、利用者の安全で潤いのある生活実現に向けて取り組んでいます。また、個人に合わせた活動や外出、リハビリなどを行っています。



第1病棟

障害が重く、気管切開、人工呼吸器、経管栄養など医療ケアを常に必要とする児童、成人の方たちが多く利用しています。医療の支えを受けながら安心して生活が送れるように、ナースステーションの周りに居室を配置しています。学齢期の利用者は草津養護学校特別教室に通学しています。

第2・第3病棟

ひとつの病棟に4つのホームがあり、家庭に近い生活空間で8～10名で生活しています。医療ケアを常に必要とする人、移動できる人、簡単な言葉によるコミュニケーションの可能な人たちがグループごとにホームで生活しています。

びわこ学園医療福祉センター野洲

開設： 1966（昭和41）年2月
保険病床： 143床
福祉定員： 143名（うち短期利用13名）
看護基準： 障害者施設等入院基本料7：1（第1・第2病棟）
療養病棟入院料1（第3病棟）



三上山を背景に、滋賀県立近江富士花緑公園に隣接する恵まれた自然環境の中で2004（平成16）年3月に新築移転しました。びわこ学園の掲げる理念のもと、「入所している方々の生活の質を高める」、「在宅の障害がある方々への支援を強める」、「地域交流を進める」、「開かれた施設運営」を運営の柱として、質の高い多様なサービスを提供し、利用者の方々の「いのち」と「こころ」が輝く場となることをめざしています。



第1・第2病棟

経管栄養・気管切開・人工呼吸器使用等、常時濃厚な医療ケアを必要とする方々や、知的障害は比較的軽度でありながらも身体障害が重い方々が生活されています。また、地域の方々も短期入所を利用されながら、共に過ごされています。

第3病棟

重度の知的障害がありながらも身体障害は比較的軽い方が多く、強度の「行動障害」を呈する方々中心のグループと、ゆっくりと移動する（這って移動・車椅子移動含む）方々のグループに分かれて生活されています。



びわこ学園障害者支援センター

特定相談支援・障害児相談支援

■ 重症児者相談支援センター びわりん ■ 重症児者相談支援センター てくてく

主に重症心身障害児者を対象にサービスをご利用される方々へ、サービス等利用計画を作成、実行、評価（モニタリング）をしています。「本人の思い」を真ん中におき、各事業所や機関等と連携をしながら、本人がよりよい生活を送れるように相談支援をしています。



生活介護・日中一時支援 重症心身障害者通所施設（5カ所設置）

常時全面的な介護や多面的な医療を必要とする利用者に対し、入浴、排せつ、食事の介護、医療ケアを実施し心身ともに安楽な状態を維持しながら、創作活動や生産活動、交流活動を通して主体的に生活を営むことができるよう支援しています。

■ えがお	■ さんさん	■ たいよう	■ かなえ	■ ピアーズ
				
(定員20名)	(定員20名)	(定員45名)	(定員45名)	(定員20名)

共同生活援助 グループホーム

共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います。また、入浴、排せつ、食事の介護等の必要性が認定されている方には介護サービスも提供します。

■ ケアホーム ともる (定員10名)		■ ケアホーム えまい (定員9名、短期入所1床)	
-------------------------------	---	-------------------------------------	---

居宅介護・重度訪問介護・行動援護等

■ ヘルプステーション ちょこれーと。

2007（平成19）年に開設し、障害者総合支援法に基づき、医療的ケアの必要な利用者、行動障害を有する利用者などへ幅広い支援をおこなっています。また、6市町と契約し、移動支援も展開しています。各種研修にも積極的に参加しています。



訪問看護

■ 訪問看護ステーション ちょこれーと。

2005（平成17）年に開設し、小児・障害児者を対象にした在宅支援を展開中。訪問地域は、野州市、守山市、栗東市、草津市、湖南市、大津市南部と広い範囲で実施しています。

多機能型（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）

■ 多機能型事業所 ちょこらんど

2018（平成30）年に開設し、「訪問看護ステーションちょこれーと。」をご利用で医療的ケアを必要とする児童を対象に、重心型一日定員5名まで。地域の療育と連携しながら母子分離や集団療育の練習を行い、さらに地域の保育所や幼稚園につなげるサポートを目指しています。「訪問看護ステーションちょこれーと。」と建物を共有しています。



知的障害児者地域生活支援センター

2000（平成12）年4月から、大津市立やまびこ総合支援センター内で、大津市の委託を受け「さくらはうす」、「ひまわりはうす」、「生活支援センター（相談支援事業）」の3つの事業運営を中心に、「知的障害児者地域生活支援センター」に多職種の専門職を配置し、医療ケアが必要な重症心身障害児者、重度の知的障害者の方の生活支援や相談支援を行っています。



生活介護

■ さくらはうす（定員60名） 月～金 9:30～15:30

大津市全域の就労や作業所への通所が困難な18歳以上の重度の知的障害者や、18歳以上の重度の知的及び身体障害の重複障害者・行動障害を呈する方が通所されています。利用者の方が自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、常時介護を要する利用者に対して、食事や排泄などの介助・日常生活上の支援・軽作業等の生産活動の機会などを提供しているほか、創作的活動も行っています。



訪問型生活介護・日中一時支援・施設入浴支援・行動援護・重度訪問介護・居宅介護・移動支援・夜間一時保護

■ ひまわりはうす 毎日

大津市の在宅の知的障害の方を対象としたセーフティネット事業を多機能で運営しています。大津市立障害者通所施設条例に基づく訪問型生活介護事業では引きこもりの知的障害者の方の訪問支援を実施。日中一時支援事業では日中の居場所の提供及び週末の集団での余暇支援の提供。また、自宅で入浴できない方を対象とした施設入浴支援サービス、ヘルプ事業として医療的ケアの方や行動援護の方を対象としたレスパイト支援を実施。併せて大津市の地域生活支援拠点事業として24時間対応の緊急時支援・夜間一時保護の支援を行っています。



指定特定相談支援、障害児相談支援、市町村相談支援事業、基幹相談調整センター

■ 生活支援センター 毎日

地域で暮らす知的障害及び重症心身障害の方を主な対象に、各種相談に応じて必要な情報の提供等や助言、障害福祉サービスの利用支援を行います。また、大津市の地域生活支援拠点の事業所として24時間の緊急時のサービス調整を行っています。併せて、作業療法士と理学療法士も1人ずつ配置されており、支援者対象の事業所巡回相談と利用者対象の個別相談を行っています。さらに大津市の基幹相談調整センターとして、大津市障害者自立支援協議会の事務局及び地域の障害分野の相談支援事業所のフォローアップを担っています。



びわこ学園長浜診療所

開設：2002（平成14）年5月、2018（平成30）年4月新築移転
診療科目：内科・小児科【予約診療可】
診療時間：月・火・木 10:00～12:30・13:30～17:00

身体障害・知的障害・重度の心身障害・発達障害（自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害等）をもっておられる方々を含め、乳幼児から高齢者まで幅広い方々が受診されています。また、湖北圏域の生活介護事業所や特別支援学校、地元小中学校の特別支援学級、地域療育教室など、障害児者の福祉支援に関わる事業所との連携も実施しています。



滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター（滋賀県委託事業）

このセンターは、重症心身障害児者や医療的ケア児等とそのご家族が地域で適切な支援を受けることができるよう、相談をお受けし、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の各関係機関と連携協力しながら支援体制の構築を目指します。また、支援者への専門的な情報提供や研修も実施していきます。